

ヒヌカンの 矛盾について



●Answer

沖繩市・コザ山 仁王院 球陽寺 前任住職
帰依 龍照 (きえ りゅうしょう)

Q

沖縄のしきたりで、いくつかの矛盾を感じます。ウガンフトキでヒヌカンはいなくなるはずなのに、新正月の元旦になると留守中のヒヌカンを祈ったり、ヒヌカンは女性の神なのに、奥さんが亡くなった家のヒヌカンを男性が祀ったり、最近、意味を理解していない人が多いと思います。帰依さんは、どのように考えますか？ちなみに、私はユタの卵で専門家です。
(糸満市・Uさん・40代・女性)

A

Uさん、専門家の方からのご質問、大変ありがとうございます。ご質問の中で、ヒヌカンと表現されていますが、沖縄の民間祭祀の中心であり、大切なしきたりの原点でもありますので、ヒヌカンと略さず、ここでは敬いの心から、御火之神加那志前(ミーヒヌカングナシメー)と記載させていただきますね。

御願解きは旧暦の
年中行事、
新正月の元旦は新暦の
年中行事

旧暦12月24日の御願解き(ウグワンブトゥチ)は、Uさんがご指摘のとおり、御火之神加那志前が天にお帰りになる日ですので、それ以降、理論上は、お勤め先の台所にご不在ということになります。当然、新正月の元旦を含む、留守中にいろいろな御願をお供えし(ウサゲ)ても、御火之神加那志前に私たちの

気持ちが届かず、一見、無駄な労力ではないかという疑問も生じて然りだと思えます。

ここでのポイントは、御願解きは旧暦の年中行事であり、新正月の元旦は新暦の年中行事であるという点です。御願解きを旧暦から新暦に置き換えますと、来年は令和2(2020)年1月18日(土)にあたります。もうおわかりですね、新正月の元旦は令和2年1月1日(正確には、1月1日午前中)ですので、まだ御火之神加那志前は天にお帰りになられていないこととなります。

ご回答としまして、新正月の元旦も御火之神加那志前には、私たちのためにお勤めされていますので、ぜひ、例年どおり、正月御願(ソーグワチウグワン)や健康祈願の若水撫で(ワカウビナデイ)を行っていただければと思います。

仮に、ご質問の内容を旧正月の元旦、つまり旧暦に該当させてみるとしましょう。来年の旧正月は、令和2年1月25日(土)にあたります。このとき、御火之神加那志前はすでに天にお帰りになられてはいませんが、留守中であつても、沖縄のしきたりに詳しい方々は、旧正月の正月御願を行う家庭がほとんどです。

御願解きと御願結び

本来、御願解きは、一年の私たちの御願の終了日(解く)のことをいい、御願結びは、一

年の私たちの御願の開始日(結ぶ)のことをいいます。解く・結ぶのは私たちの都合であり、そのことに関わらず、御火之神加那志前はいつも私たちを台所の神御香炉から見守ってくださっていることに変わりはありません。

ちなみに、御願解きは、別名「御火之神加那志前の送り(ウークイ)」といい、御願結びは、別名「御火之神加那志前の迎え(ウンケイ)」といいます。

沖縄では、御願解きの日は旧暦12月24日で統一されていますが、御願結びの御火之神加那志前迎えは、旧暦12月30日〜旧暦1月4日までと幅があります。決して、旧暦1月4日のみではないということがポイントです。地域や家庭によつては、一度、天にお帰りになるのですが、年末にはまた台所にお戻りになられ、旧正月の元旦は正月御願を受け取ってくださいといえます。

神仏は中性的存在

また、一般的に、「ヒヌカンは女性の神様」と耳にすることがあります。日常、台所に立つことの多い女性が、一日・十五日を御願されるからでしょうね。通常、この考え方で問題ありませんが、U

さんは専門家ですので、『神仏は中性的存在』であるという基礎的ポイントは押さえておかれた方がいかと思います。

本来、御火之神加那志前への一日・十五日の焼香は、世帯主(ヌーシ)の男性が行うものとの考え方も沖縄にはありますので、単に御火之神加那志前や焼香者の性別だけで判断することは避けていただければと思います。奥様がお亡くなりになり、悲しみの中にも家族(ヤーニンジュ)や年中行事の御願を、奥様に代わり御火之神加那志前に行われていらっしゃるご主人の心中は察するに余りありません。

Uさんは、ユタというご自分のお立場に誇りを持たれていて、とても素晴らしいことだと思えます。沖縄のしきたりの方々として、これからも多くの方々の心の支えになってあげてくださいね。

御願解き

(別名「御火之神加那志前の送り」)

旧暦12月24日



絵・帰依43子

御願結び

(別名「御火之神加那志前の迎え」)

旧暦12月30日〜旧暦1月4日